

## 島根の大地の成り立ち：島根の大地の姿

島根県は多くの日本神話の舞台となっており、その景観は神話を形成するもととなった美しい風景を今も保っている。県の約 78 パーセントが森林であり、宍道湖と中海が残りの部分のほとんどを占める。湖周辺の湿地は約 5 万羽の渡り鳥の重要な生息地であり、宍道湖周辺の約 8,000 ヘクタールと中海周辺の約 9,200 ヘクタールは、湿地の保存に関する国際条約であるラムサール条約で保護地区に 2005 年に指定されている。

島根北部には日本海があり、荒々しい波風が吹き付け複雑な海岸線が作り出されている。特に島根半島沿岸には海蝕洞や小さな洞穴が見られ、印象的な形状に浸食された島々が海辺に点在している。小伊津魚港には化石があちこちに詰まった崖が見られ、1500 万年前に形成された海底部が波食棚として海岸部に広がっている。

島根県の大部分は、川に削られた峡谷や、険しい岩石から成る山峡がある丘陵・山岳地帯である。中でも立久恵峡と鬼の舌震は 1927 年に国指定天然記念物となり、1964 年には県営自然公園に指定された。神戸川によって形成された立久恵峡には高さ 100~200 メートルの安山岩の断崖が 2 キロに亘ってそそり立つ。鬼の舌震は 3 キロメートルの大渓谷で、川底は急流をつくりだす大量の巨礫（巨岩）で埋め尽くされている。